

## 白石踊後継者育成事業 白石踊会笠岡支部 今月の活動（令和3年4月）

令和3年4月の白石踊に関わる高校生の活動について高校生自身に報告文を書いてもらいました。

### 1.第24回SOCボランティア・スピリット・アワード コミュニティ賞 受賞

令和2年度に開催された第24回SOCボランティア・スピリット・アワード（主催：プルデンシャル生命、ジブラルタ生命、プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命、日本教育新聞社 後援：文部科学省、日本赤十字社）で、中高生が白石踊の継承活動をしていることでコミュニティ賞を受賞しました。このボランティア・スピリット・アワードはボランティア活動に取り組む中学生・高校生を応援するプログラムで、前回の第23回では文部科学大臣賞に輝きました。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から活動が自粛された中で、自分たちにできることに取り組んだことが評価していただけたのではないかと思います。

例年はコミュニティ賞の表彰式は中四国ブロックの受賞者が集まって開催されるのですが、それが令和2年度は開催されず、その代わりに主催者の方が直接、賞状とメダルを渡して下さることになっていました。このたび4月17日に笠岡中央公民館で定期練習会が開催される際に、表彰式をしていただきました。

中高生を代表して白石島の山本誠、山本武、河田拳志郎が授賞式に臨みました。ジブラルタ生命保険㈱の荻田耕治 笠岡営業所長から手渡していただきました。

白石島からも多くの方が来てくださっていて、皆さんの前で表彰式をしていただいたことを嬉しく思いました。ありがとうございます。これからも頑張っていこうと思いました。（文章 山本 誠・武）



## 2.初めての定期練習会に参加した高校生の感想文

令和3年4月に初めて白石踊の定期練習会に参加した高校生が率直な感想を寄せてくれました。

白石踊を習ってみようか迷っておられる方に対しても気軽に安心して参加いただけるような、背中を押してくれる文章ですので、ご紹介します。

初めて白石踊りの練習会に参加してきた。

「まずはみんなでぶらぶら踊！」と、いきなり太鼓と歌が始まり、見様見真似でやってみようと思っても、さっぱり分からなかった。不慣れな私のことを見つけて、白石踊のお師匠先生が、まずは足の動き方、続いてそれに合わせて手の動かし方を教えてくださった。今度は私がその先生の動作を凝視しながら、曲に合わせて何度も何度も繰り返した。先生の動きはすごく滑らかで水が流れるようでいくら見ても飽きない気がする。私が詰まるとすぐ気付いて丁寧に指導してくださった。

ぶらぶら踊をどうにかマスターしようと先生について踊っていたのだが、視界の端に男踊りを踊る方々、傘を持って踊る方々がちらちらと見えた。ベースはぶらぶら踊だと聞いたが雰囲気ガラリと変わってダイナミックで凄く格好良かった。ぶらぶら踊が踊れるようになったら順々に習ってみたいなと思った。

休憩時間には、隣に座っておられた地元の方が、「白石踊ってたくさん種類があるのよ、5年くらい続いたらマスターできるかしら。」とお話してくださった。皆さん気さくな方で、いきなり現れた私にも分け隔て無く、寧ろ気にかけて話しかけてくださってとても嬉しかったし安心できた。

「白石踊」と聞いて日本舞踊や民謡のようなものを漠然と思い浮かべていたけれど、私は今日圧倒されてしまった。練習会ではCDでは無く、実際に先生方が太鼓を叩いて、口説きという歌を歌っていて、流れに乗って体を動かしてみるとなんだか遠く昔の人々の、普段触れているものとは異なる何かを感じた。なんと形容するのが適切か分からないけれど、これ、なんかすごい……！と感動させられてしまった。私を連れてきてくれた父も勢いで練習会に参加することになり、すっかり白石踊の魅力にハマって一緒に踊りの輪に入ってしまった。

ぶらぶら踊はその名の通り力を抜いて身を任せて踊るものようで、この日3回目の口説きでは大分身体の動かし方が分かってきた。けれど先生が前に居なかったり少し気を緩めたりしたらすぐにこんがらがってしまう。難しい！けど面白くて、私も父も白石踊の、この会のファンになってしまったかもしれない。次の練習までに忘れないように、また歌詞の意味なんかも調べておこうと思う。

(文章 尾崎 光)

以上